
バクフーンのクリスマス

バクフーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バクフーンのクリスマス

【Zコード】

N7684F

【作者名】

バクフーン

【あらすじ】

クリスマスという事で、バクフーン達の冒険の番外編を作つてみました！

(前書き)

ポケモン達の世界にもクリスマスがやって来た！

今日は12月25日。

クリスマスだ。

ポケモン達はクリスマスを楽しんでいた。

もちろんあのポケモンも・・・

「はあ～・・・暖房が効いてる部屋って最高」・・・あれ?もしもしバクフーン君?

「お~作者じゃん!どうしたよ?」

いやどうしたじゃないよ!なんでクリスマスの日なのに家の中でのんびりくつろいでるんだ?

「だつて外寒いんですもの!おまけに雪降ってるし・・・」

あつそういういえばバクフーンは寒いの苦手だつたんだっけ?

「こういう寒い日は暖房が効いてる家の中でのんびりするに限りるつしょ?」こらこらーせつかくのクリスマスなんだから皆で集まって何かしたら良いじゃないか!

「・・・それを言わないでくれ・・・」

あ、あれ?バクフーンが部屋の隅っこの方でいじけちゃったよ(汗)
どうしたのさ?

「・・・俺だつて本当は皆でクリスマスを祝いたいんだよ。だから、クリスマスがやつてくる一週間も前に皆に言つたんだ。クリスマス皆で集まってクリスマスパーティーやろうぜってさ。そしたら・・・皆してその日はちょっと別の用事があるから無理なんだつて言われたんだ・・・」

あらら~(汗)そりや悲しいなあ(汗)でも、君には母親のリリがいるじやないか!

「母さん昔の友達と一緒にどつか出掛けた・・・」え~(汗)まさか今一人か?

「・・・一人ぼっちのクリスマスか・・・ハハハ・・・何かせつな

い（泣）」あ～またいじけてしまった（汗）
ピンポーン！

おや、誰かがインター ホンを鳴らしたぞ？

「は～い、どちら様～？」バクフーンがドアを開ける。そこにいたのはデリバードだった。

「メリーカリスマス　はい、君にプレゼントだよ」「そう言ってデリバードはバクフーンに箱を渡した。ん？ちょっと待てよ？ 確かデリバードのプレゼントって・・・ボンツ～！」

「うわっ！？」

爆発するんだったよね（汗）おや？ 箱が無くなつたけど手紙が出てきたぞ？

「なんだこりや？」

「それが君へのクリスマスプレゼントだよ　じゃ、良いクリスマスを」「デリバードは空高く飛んで行つてしまつた。

「行つちやつたよ・・・」「バクフーン、手紙にはなんて書いてあるんだい？」

「えーっと・・・つて差出人の名前書いてないし（汗）まあ良いか・・・なになに？・・・今夜の9時。シティの噴水広場に来て・・・つてこれだけしか書いてねえし！？」

「なんだろうね？」

「今夜の9時・・・あと30分で9時になるな。」行くのかい？
「まあちょっと怪しい手紙だけど・・・とりあえず行つてみるよ。
えーっと・・・確かにこの辺に入れてた筈・・・」

タンスの引き出しを開けて何かを探しているバクフーン。
何を探してるので？

「お～あつたあつた　俺のマフラーと手袋！」

お～！ ポケモンカードゲームで良く見る基本エネルギーの炎が書かれてる手袋に炎をイメージした柄のマフラーか！

「あとは帽子に耳当てをやれば完璧　良し、行くか！」

バクフーンは外に出た。白い粉雪が降り注いでいる。そしてバクフーンが吐く息が白い。

シティのポケモン達が暮らしている家がクリスマス仕様にライトアップされていてとても綺麗だ。

「つうわあ！？」

あつ（汗）バクフーンが凍結した地面に足を滑らせてこけた（汗）

「イテテテ・・・」

大丈夫かいバクフーン？「なんとか（汗）つたく！凍結してるとか危なくてしようがねえよ！」

しうがないよ。

雪が降る程気温が低いんだから。

「火炎放射！」

あつバクフーンが火炎放射を放つて凍結した地面を溶かした。

「良し これで安心して歩けるぜ」

やるなバクフーン。

それからしばらくしてようやくフレイムシティの噴水広場にやつて来たバクフーン。

「なんだありや？ いつの間にあんなテントが・・・」

噴水広場にはとても大きなテントがあった。

サークัสとかが出来そなくらいの大きなテントが。

「・・・入つてみますか・・・」

バクフーンは恐る恐る中に入つていった。

パーン！パーン！

中に入った瞬間クラッカーが鳴り響いた！

「な、何！？」

バクフーンは驚いた。

「メリークリスマス 待つてたわよ坊や」

「メリークリスマス、バクフーン」

クラッカーを鳴らしたのはバクフーンの母親のリリ。それにリザードンの両親のメガニウムにジュカイン、そしてチームブラストの皆

やバクフーンが今まで出会つて来たライバルやアグノム達神と呼ばれるポケモンやポケモンレンジャーのマニコーラやクレセリア、そしてジムリーダー達だ！

「えつ？えつ？どういう事？」

「前にお前言つてたろ？クリスマスに皆でクリスマスパーティー やろうつてさ。」

あつリザードンだ。

「実はその時にはもうクリスマスパーティーの準備を始めていたんだ。」

「言つてくれれば良かつたじゃん！」

「お前を驚かそうと思つてさ。『ごめんな隠してて。』

なるほど、そういう事だったんだね。

「・・・まあ良いよ。にしてもスゲー人数だなあ！それにこのテント、良く用意出来たな？」

「ラグラージのおかげさ。」

そういうえばラグラージは大富豪の息子だつたね。

「特注で頼んだんだ。でも作ってくれた人は大変だつたみたいだよ。ディアルガやパルキアが入れる位の大きさにしたり大人数入れるようしたりで。」

そりやそうだ（汗）

「さあ坊や達！話はそこまでにしてパーティーを始めましょう せつかく用意した料理が冷めちゃうわよ！」

リリやメガニウム、それにジュカインが腕によりをかけて作った豪華な料理が長く巨大なテーブルにズラッと用意されていた。

「美味そう ジュル・・・いつただつきま～す」 皆のクリスマスパーティーが始まった。

皆美味しい料理を食べたり楽しくお喋りしたり、いろいろ遊びをやつたりとクリスマスを満喫した。バクフーンへのクリスマスプレゼントは多分、この皆で楽しく過ごした時間なのである。

「でもやっぱり何か物が欲しいなあ（笑）」

「こらバクフーン！せつかく綺麗にまとめようとしたのに！」

「悪い悪い（笑）読者の皆！これからも本編のバクフーン達の冒険をよろしくな！じゃあ良い夜を！メリークリスマス！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7684f/>

バクフーンのクリスマス

2010年10月21日23時14分発行